



「2023平和パネル展」に78人が来場!

美和緒川御前山平和の会

市民に平和の尊さと戦争の恐ろしさを伝える!

8月1日(火)から10日(木)までの間、常陸大宮市緒川地域センター1階ホールにおいて高校生が描いた原爆の絵を活用した「2023平和パネル展」を開催しました。市と教育委員会の後援をいただき市広報誌お知らせ版に掲載してもらう、市立明峰中及び県立小瀬高校にご案内のチラシ配布依頼、また新聞折込みをおこないお知らせしました。

常陸大宮市は、2008年(平成20年)3月24日に「核兵器廃絶平和都市宣言」をおこなっています。毎年開催しているパネル展は「市民に平和の尊さと戦争の恐ろしさを伝えることを目的」に取り組んで来ました。来場された方々は約78人。感想や意見も寄せられましたのでいくつかご紹介しします。

▽多くの人に見ていただいて、戦争のない平和な世の中になりますように願っています。

▽「高校生が描いた原爆の絵」展示ありがとうございます。ウクライナにおける戦争に重なり、戦争のない世の中を願っています。
▽文章で読むだけより、強烈に原爆の恐ろしさが伝わってきました。日頃の平和な気持ちがふっとんだような感想を覚えました。
▽原爆のむごさ恐ろしさを見て、改めて言葉がありません。今日8月9日は広島に続いて長崎の原爆記念日をTVで拝聴しました。皆さん恐ろしい核兵器の根絶を願っています。将来の子どもたちに危険が及ばないように、全力で平和な社会を築いていけるよう国も、もっともっと力を入れてください。



「夜間・早朝帯の飛行訓練中止を求める」自治体要請行動 ー百里基地反対連絡協議会ー

「20時以降の訓練はしない」再確認を要請!

10月11日(水)。百里基地反対連絡協議会(略称:百里連協)は、航空自衛隊百里基地で実施される「夜間帯と早朝帯の飛行訓練の中止」を求め、県庁及び茨城町、銚田市、行方市、かすみがうら市、小美玉市の5市を訪問して要請をしました。

■一方的に深夜・早朝帯で戦闘機訓練を公表した百里基地

9月15日(金)。百里基地は、10月16日(月)から19日(木)の4日間の間に2回の深夜・早朝帯で戦闘機訓練を行うことを公表しました。これは、通常訓練(8時以降20時まで)を延長し、「深夜及び未明を除く、夜間帯及び早朝帯」に行うというものです。夜間帯及び早朝帯訓練を許せば、百里基地周辺の住民と周辺自治体における爆音被害は「一日中」ということになります。

■県知事及び5市町長に、1日がかりの要請訪問にとりくんだ「百里連協」

10月11日(水)、「百里連協」は県平和委員会代表理事の木村泉さん、事務局長の篠原陸さん、地元である百里基地反対同盟の梅沢田鶴子さん、茨城平和擁護県民会議の相楽衛さんなど、構成の8団体で代表団を結成。県知事及び関係5

市長宛の「百里基地での夜間・早朝帯の戦闘機飛行訓練の中止を求める申入れ書」を作製。県及び関係5市を1日がかりで訪問し、読み上げる形で要請しました。

■約束を守らない百里基地

百里基地の夜間・早朝訓練は、一年前の10月末にはじめて実施されました。新聞報道によると、小美玉市長は百里基地司令を呼び、「22時以降の訓練中止」を申し入れ、基地司令は「やらない」と約束しました。ところが実際は22時前に戦闘機が離陸し、帰還したのは深夜でした。約束は破られていました。

■県民の立場に立たない県当局

県庁では「県民生活環境部生活文化課」「県民生活環境部環境対策課」の課長、課長補佐が対応しました。県は「百里基地」対策課を設置せず、「生活環境部」が騒音対策等の窓口になっています。生活文化課長は、「防衛、安全保障は国の専管事項であり、県としてどうすることが出来るか考えているところです」と述べ、深夜帯、早朝帯については「少なくとも24時を過ぎて着陸することのないように。朝6時前に離陸することはない」と回答。実態をつかんでいません。



県へ要請



茨城町へ



銚田市へ



行方市へ



かすみがうら市へ

■県が基地側の言うまを受け入れている情けない実態

今回の訓練は、時間帯がさらに遅くなり、24時までには訓練を終了するといいます。離陸時の爆音は特に耐え難く、地域住民と周辺住民の安眠を妨げ、心身に悪影響を及ぼします。しかし県は、安全で安心な暮らしに牙をむく夜間早朝訓練に異議を申し立てることなく、「考えているところです」という無責任な回答でした。また県は、「夜間」「深夜」とは何時から何時までという「概念」がないことを正直に告白しました。基地側の言うまに訓練を受け入れている情けない実態も明らかになりました。

百里基地正門付近
50人が結集

基本的な人権、人格権を脅かす飛行訓練は中止を!

夜間・早朝帯の飛行訓練中止を求める抗議集会

百里基地反対連絡協議会（略称：百里連協）は10月13日（金）11時から、航空自衛隊百里基地正門前駐車場側に設置されたフェンス外側にある空き地において「抗議集会」を開催しました。F2戦闘機4機が今月16日（月）から19日（木）の4日間のうち2日間を、「深夜及び未明を除く、夜間帯及び早朝帯」に百里基地及び周辺空域で戦闘機訓練を公表しています。深夜帯の戦闘機訓練は周辺住民に爆音被害をもたらします。「人間らしく生きる最低条件である“寝て体を休める”」時間を奪うこととなります。「飛行訓練中止」の申し入れと抗議集会です。司会は県平和委員会の篠原睦事務局長が担当しました。

■代表者の2人が、正門前で2人の手渡し!

梅沢田鶴子さん（百里基地反対同盟）と相楽衛さん（茨城平和擁護県民会議）の二人が代表者となってフェンス内側に入り、基地正門前に行き、責任者に手渡しました。

これまでも報告してきたように、2年前までは基地正門前

■地元議員も参加した、関係1町4市の訪問要請

関係1町4市とは茨城町、鉾田市、行方市、かすみがうら市、小美玉市です。ここでは地元議員も参加し、要請文を携えて訪問要請を行いました。最後の小美玉市では副市長に要請書を手渡しました。副市長は「8月25日、市長とともに22時以降の訓練中止を文書で申入れた」と述べました。

梅沢さんは「昼間も爆音をまき散らし、夜も朝も訓練する。これでは昼夜を分かつたず訓練することになる。このようなことが常態化されては困る。20時以降は訓練をしないというルールの再確認をしてもらいたい。」と厳しく指摘しました。

で抗議集会が行われていました。しかし元自衛官等による妨害行為を理由に、フェンスが設置され、「申入れ」や抗議集会はフェンスの外側にされてしまいました。

今回、「基地正門前での申入れ書提出」となったのは、粘り強く抗議を続けた結果です。憲法は「集会」の自由を保障し、請願権を認めています。百里基地の対応は、正されなければなりません。梅沢さんは「申入れ」書を提出したことを集会参加者に報告し、農民運動茨城県連絡会など7団体の代表が「抗議」のアピールをしました。木村泉県平和委員会代表理事は、「基地司令は、基本的な人権、人格権を脅かす飛行訓練を中止せよ」と怒りを込めて訴えました。約50人の参加者から「そうだ!」の声が上がりました。



篠原睦事務局長が「新婦人つくば支部」の学習会で講演! 「日米安保と私たちの暮らし」

新婦人つくば支部・かつらぎ班は、10月8日、「日米安保と私たちの暮らし」について学習しました。なぜ、このテーマで学習会をおこなったか、また学習会の様子などについて報告します。「5人の子、残して即死」が安保条約学習のきっかけになりました。

「5人の子、残して即死」

《新婦人つくば支部・かつらぎ班 増永かよ子》

1957年11月の新聞社会面で大きく取り上げられた記事。小学3年生の私は、近所の子と縄跳びや石けりをして、買い物に出かけた母親を夕方暗くなるまで「遅いね」と思いながら待っていました。でも、まさかの結末。遊んでいた子のお母さんと二人一緒、車にはねられて即死でした。街道に信号機もなく、車が凶器とまで言われていない、ゆったりとした時代でした。

当時、東京の練馬区には「グランドハイツ」という米軍基地の住居があり、隣の相手は米軍兵でした。その若者の処遇がどうなったか知る由もないが、数日後通訳等と一緒に我が家に

謝罪にきた記憶はうっすらと残っています。その時以来、私は「日米安保条約」の影の被害者がここにもいると心の中で叫び続けている。「5人の子、残して即死」この9文字を私はよく思い出す。—これは、新婦人つくば支部・かつらぎ班ニュースのコラム欄に載った会員の文章です。65年前の出来事を初めて公にしたという重い告白文でした。

班では、彼女の思いを受け流すのではなく、「米兵が何故日本にいるのか」「そもそも日米安保条約って何?」と学習する必要性を班会等で確認し、「日米安保と私たちの暮らし」という学習会を企画することになりました。

平和委員会事務局長の篠原さんに講師をお願いし、10月8日に実施。安保条約の成り立ちから現在に至るまで、分かりやすくお話を聞きました。「憲法の上に安保条約がある」という現実を恐怖を、平和憲法をないがしろにする国の為政者にますます憤りを感じました。莫大な軍事費を湯水のように注ぎ込み、一方国民の暮らしは決して豊かとはいえません。黙して語らずではなく、知ることの必要性、声をあげることの大切さを改めて感じました。